

「(仮称) 人とひとがつながる大分市条例」 制定の背景等

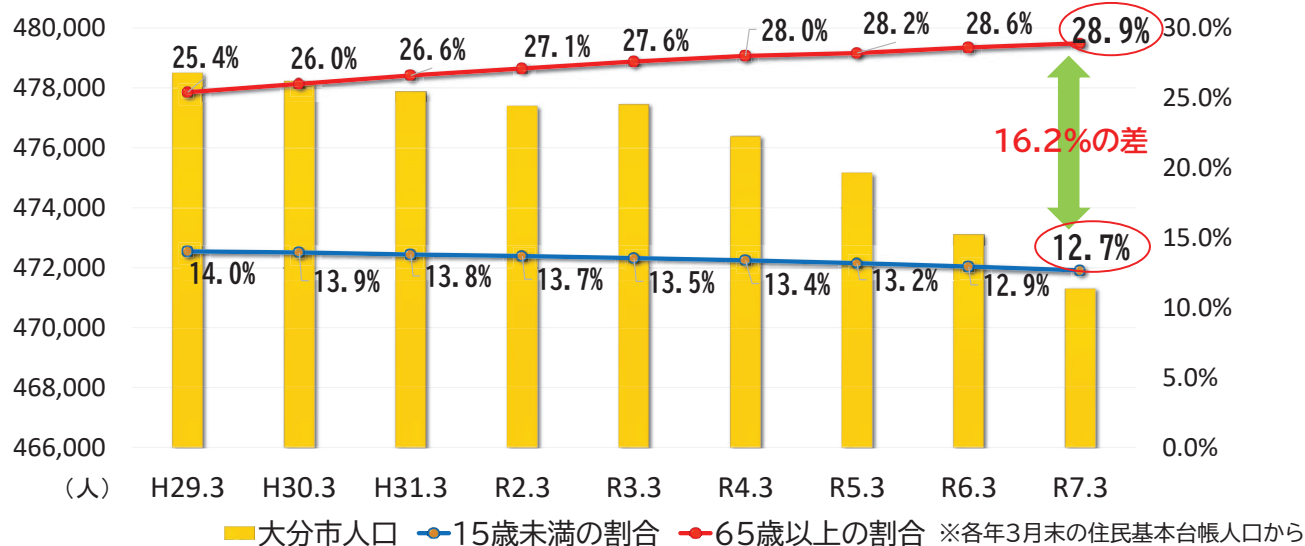
【人とひとのつながり、地域のつながりを取り巻く現状】

- 令和6年4月1日に「孤独・孤立対策推進法」が施行
- 人口減少、少子高齢化、単身世帯の増加といった社会構造の変化によるつながりの希薄化
- 地域コミュニティの衰退・担い手不足
- ライフスタイルの変化やグローバル化の進展等による地域課題や市民ニーズの複雑化・多様化

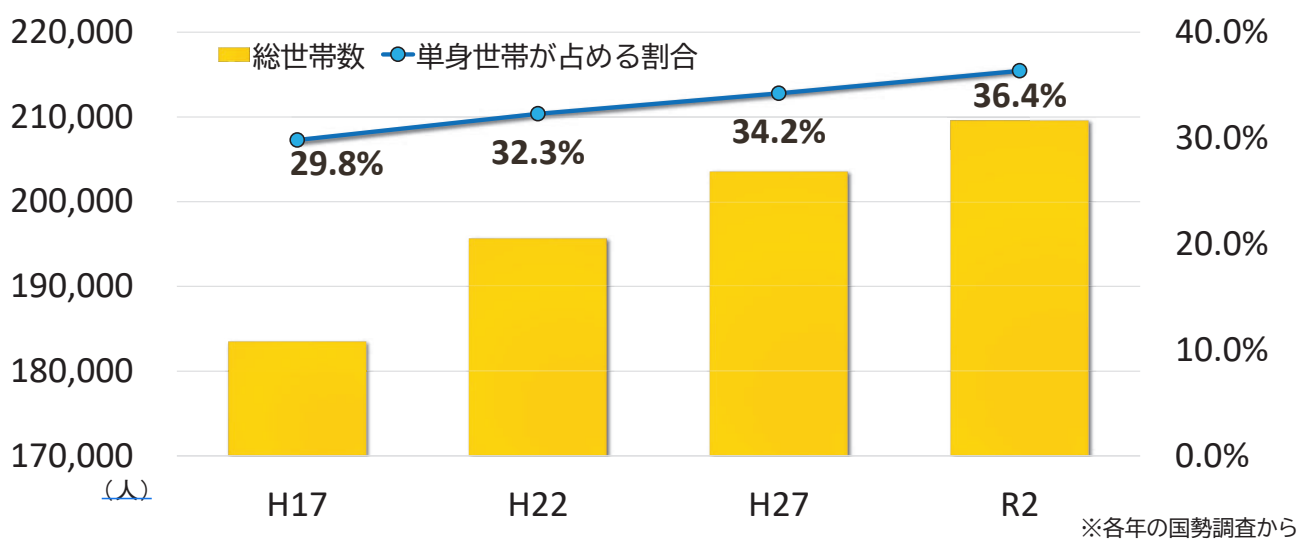
【条例制定の必要性】

- 人とひとがつながる社会の実現に取り組む大分市の姿勢を明確にする。
- 地域のつながりを深め、地域住民による支え合いの仕組みづくりを目指す。
- 孤独・孤立問題の予防・解消に向けて社会全体で対応するために、市の施策を後押しする。

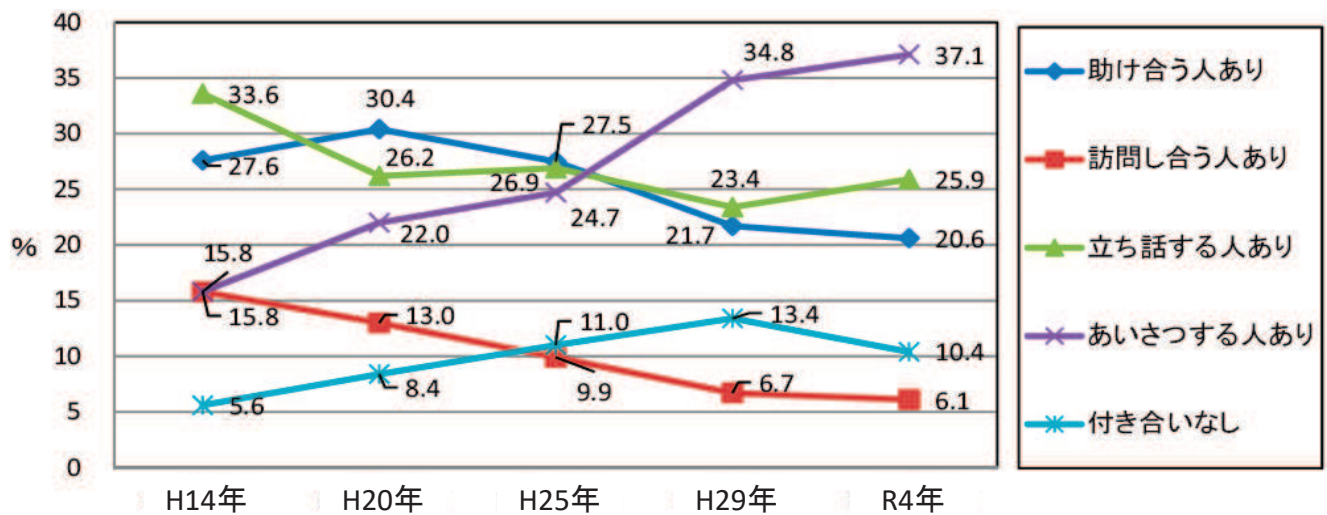
人口減少・少子高齢化の進展



単身世帯が占める割合の推移

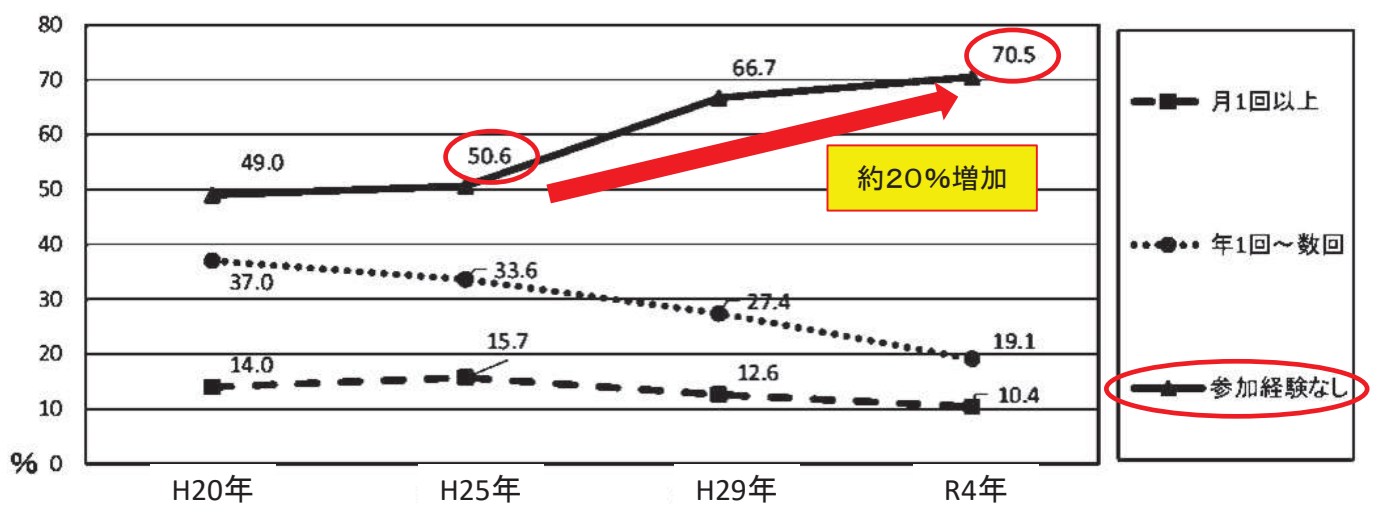


ご近所付き合いの程度



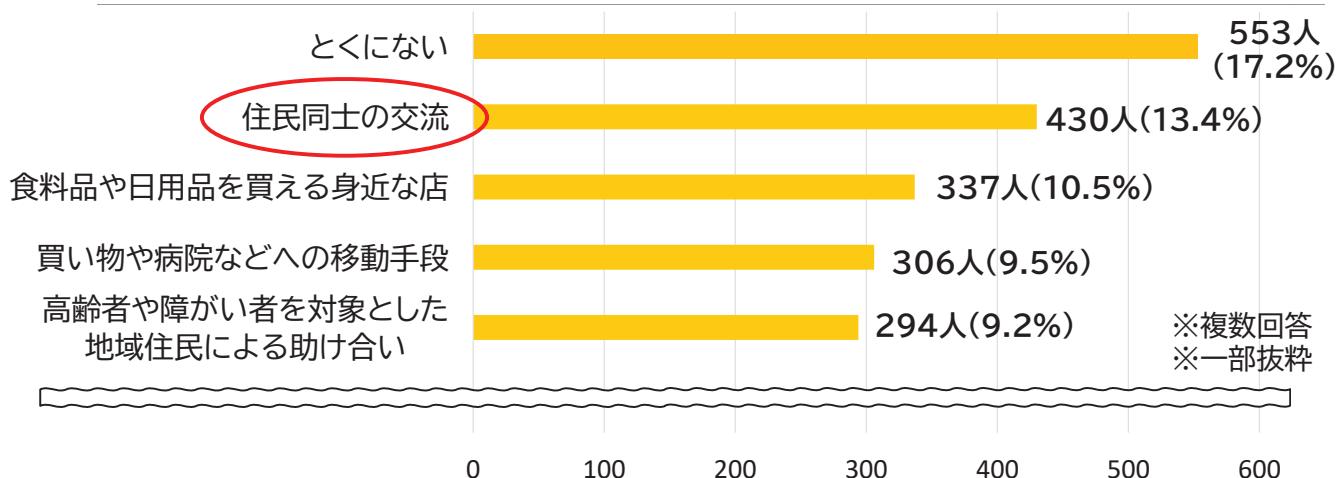
※地域の暮らしと福祉に関する大分市民意識調査結果から

地域活動への参加頻度



※地域の暮らしと福祉に関する大分市民意識調査結果から

地域で足りないと感じているもの



※地域の暮らしと福祉に関する大分市民意識調査結果から

多様な地域課題①

子育てにおける地域とのつながり に関すること

「子育てが地域の人に支えられている
と感じる」と回答した保護者の割合の減少

就学前: 59.6%(H30) ⇒ **53.8%**(R5)

小学生: 62.2%(H30) ⇒ **57.3%**(R5)

(令和5年度大分市子育てに関するアンケート調査)

高齢者の交流に関すること

●地域ふれあいサロン登録者数の減少
11,953人(H30) ⇒ **8,629人**(R6)

●自治会や老人クラブなど、人との交
流の場へ「**参加していない**」と回答し
た人は**約50%** (令和6年度大分市民意識調査)

多様な地域課題②

障がい者の地域活動への参加 に関すること

「参加する体力がない」や「**参加できる
行事や活動が少ない**」ことを主な理由
として、地域活動に参加していない方
が多い。

(令和5年障がい福祉に関するアンケート調査)

外国人住民が抱える困りごと

- 本市に居住する外国人の数
2,621人(H28) ⇒ **4,912人**(R7)
- 日常生活における困りごとは、
「言葉の伝達」が23.5%で、最も多くなっている。

(第5次大分市国際化推進計画策定に係るアンケート調査)